

地理空間データ分析の正誤表

読者さまへ
 多くの誤りがありましたことを深くお詫びいたします。
 著者

第1刷

箇所	誤	正
p.11 下から 8 行目	の準拋楕円体は	準拋楕円体は
p.15 上から 1 行目	ここで、colorRampPalette() は	ここで、colorRampPalette()は
p.35 下から 4 行目	次に、grDevice パッケージ	次に、grDevices パッケージ
p.40 図 2.24 のキャプション	spplot()	bubble()
p.57 上から 5 行目	の spTransfrom()は幾何変換 を	の spTransform()は幾何変換 を
p.97 下から 8 行目	ある区域に隣接した区域を 1 次隣接としたとき、その 1 次隣接区域にさらに隣接す る区域を 2 次隣接くいきと いう。そして、さらに 2 次 隣接区域に隣接する区域を 考えていく。これを一般化 して k 次隣接区域と呼ぶ。 この k 次隣接区域から近隣 リストを作成する。 k=3 の場合の近隣リスト nc.knn.nb を得た。 knearneigh()は、k 次隣接区域 の隣接関係を計算するコマ ンドである。	ある区域から最も近い区域 を最近隣地区または第 1 階 近隣地区とする。2 番目に近 い地区は第 2 近隣地区であ る。これを一般化して、k 階 近隣地区と呼ぶ。この k 階 近隣地区から近隣リストを 作成する。 k=3 の場合の近隣リスト nc.knn.nb を得た。 knearneigh()は、最近隣から k 番目までの近隣関係を計算 するコマンドである。
p.98 図 3.9(c)のキャプション	k 次隣接	k 階隣接
p.101 下から 13 行目	$I_i = \sum_i^n I_i$	$I = \sum_i^n I_i$
p.104 下から 1 行目	spDistN1()は距離を計算する コマンド	spDistsN1()は距離を計算する コマンド
p.135 上から 3 行目	ら変数の名前を変更するこ とはできない。	ら変数の名前を変更するこ とはできない。

箇所	誤	正
	grah.data.frame()に,	graph.data.frame()に,
p.160 上から 7 行目	最適なバンド幅は約 1.67 と計算された. 次に, 同様に gwr.guass()や gwr.tricube()を試行する.	[削除]
p.162 上から 1 行目	grw()による GWR 分析の実行結果は	gwr()による GWR 分析の実行結果は
p.171 下から 5 行目	ケージに依存するパッケージは, rgalパッケージや	ケージに依存するパッケージは, rdgalパッケージや
p.172 上から 6 行目	国勢調査をを含み	国勢調査を含み
p.230 右段上から 8 行目	grDevice ... 35 grDevices ... 17	grDevices ... 17,35
p.231 左段上から 16 行目	rgal ... 171 rdgal .. 4,11,57,172,186,198,219,221-223	rgdal .. 4,11,57,171,172,186,198,219,221-223
p.232 左段下から 1 行目、右段上から 1 行目	colorRampPalette() 172 colorRampPlalette() ... 15	colorRampPalette() 15,172
p.233 左段上から 17 行目	grah.data.frame() ... 135 graph.data.frame() ... 136	graph.data.frame() ... 135,136
p.233 左段上から 25 行目	grw() ... 162 gwr() ... 160	gwr() ... 160,162
p.234 右段	spTransform() ... 11, 85 spTransfrom() ... 57	spTransform() ... 11, 57, 85
p.234 右段下から 21 行目	spDistN1() ... 104 spDists() 207 spDistsN1() .. 40,207,208	spDists() ... 207 spDistsN1() ... 40, 104, 207, 208,

第 2 刷

箇所	誤	正
p.40 上から 7 行目	spplot()を使う場合は, layout.scale.bar()が利用可能である.	[削除]